

1. 屋良朝苗日誌について

屋良朝苗日誌（以下「日誌」という。）とは、米国統治時代の琉球政府で初の公選主席、本土復帰後の沖縄県で初代の沖縄県知事を務めた屋良朝苗氏が、1953 年（昭和 28）1 月から 1985 年（昭和 60）10 月までの三十年余りにわたって書きつづった 125 冊の日記とメモ帖類である。

日誌の原本は屋良氏の遺族により読谷村に寄贈され、沖縄県公文書館は原本から複製を作成して所蔵している。

2. 日誌の公開及び翻刻の利用について

(ア)日誌の公開について

沖縄県公文書館では、手書きの文章を読みやすくするために、ワープロによる翻刻作業を進めている。本翻刻はその成果の一部である。

日誌は、沖縄県公文書館の設置及び管理に関する条例第 11 条の規定により、個人の秘密の保持その他合理的な理由により利用に供することが適当でないと判断される情報については黒塗り処理を行っている。

(イ)翻刻の利用について

日誌の一部を出版物等に掲載しようとする者は、沖縄県公文書館管理規則第 9 条（出版物等への掲載）の規定により、あらかじめ「出版物等掲載許可申請書」を沖縄県公文書館指定管理者に提出し、その許可を受けなければならない。

翻刻に誤りが見つかった場合には、都度、改訂するものとする。その際には改訂箇所および改訂日が分かるようにする。

3. 凡例

(ア)文体・語句・送り仮名について

- 語句は基本的に原文のまま表記した。
- 誤りと思われる語句は後ろに [ママ] と付した。
- 当て字は原則そのまま表記したが、分かりにくい場合には、[] で正しい漢字を補足した。
(例) 渡屋 [都屋]
- 判読できない文字は、文字ごとに■で表記した。何文字かが不明な場合は、■■● [■■■?] のように表記した。
- 語句を補足したほうが意味が分かりやすい場合には、[] で補足した。

屋良朝苗日誌 119 1972 年（昭和 47 年）～

（例）〔昭和〕 43 年

- 送り仮名は、意味が通る場合には訂正せずにそのまま表記した。
- 脱字がある場合には、〔 〕で補足した。

（イ）句読点について

- 句読点は書かれている通りに表記した。

（ウ）漢字の表記について

- 旧漢字はそのまま表記した。
- 略漢字は正しい漢字に直した。

（エ）書き損じ・見せ消しについて

- 屋良氏により書き損じが訂正されている場合には、訂正後の語句を表記した。
- 屋良氏による見せ消しは、そのまま残した。

（オ）改頁・改行・スペースについて

- 原本において日記の文章が次頁まで続いている場合は、翻刻においては改頁せずにそのまま続けた。
- 翻刻における改行は基本的に段落の前後のみとし、日誌原本にある改行とは必ずしも一致していない。
- 屋良氏自身が空けた文中のスペースはそのままとした。
- 段落の初めは一字空けた。

2019 年 3 月 31 日

屋良朝苗日誌 119 翻刻版

編集：沖縄県公文書館指定管理者公益財団法人沖縄県文化振興会

33

1 文教局資料 P・9420・ P96

1、教員移動のもたつきに依る新学期の3日のおくれ

答、南部の始業8日

北部、中部、那覇 宮古

始業 10日

八重山 6日

- ① これは勸奨退職者の人数の決定が財政上の面からおくれた事
- ② 児童数の減少で教員過剰の緩和に困難を来たした事
- ③ 本年度の場合は本土復帰に伴う県政への制度変革等

2 特殊事情により発生した問題でありますので今後かかる教育行政上の問題により児童、生徒にしわよせがないよう十分留意したい

◎ なお始業式がおくれた地域においては父兄ならびに教育関係者に十分な理解協力を求め授業時数の確保等についても各連合区の実体に即して年間計上の中で処置するよう各学校長に通達し、遺漏のないよう文教局長で行政指導をしてある

2 [ママ]、医療行政

厚生局資料 P94、P96

折衷案 P97、98

3、軍雇用者の解雇問題

離職者対策

労働局資料 P14

企業誘致の問題

労働局資料 P5

通産局資料 P4、P5

4、続発する少年犯罪と社会不安

法務局 P. 11、P12

総ム局 P. 21

法務局刑事部長 唐間氏が少年院訪問 実情調査、注意

5、11. 10ゼネストに対する公務員の処分問題

総務局 行政部資料 P12

6、復帰に伴う琉球政府の債権 債務の引継ぎ

企画局

借入金 { 公共事業・・・県7、国3
赤字借入金 県5、国5
県負担分 臨時交 10ヶ年
来る予算・・・
開発庁 10億円組まる
沖縄県庁 15億円・・・臨特交

7、物価問題及び差損補償

就任以来の物価対策
企画局 P. 11、17、18
P 19、20、21、22、23

8、地方自治の確立と財政

行政部資料 P 40

9、県条例等についての取扱いについて

警察資料

(条令関係) P 1

総務局資料 P. 2、3、4～6

8. 及追加資料

復帰の日に専決しなければならぬ条令≒60件

専決しなくても可なるもの 30件?

- ① 国の政令を条令と見なされるもの
- ② 助成条例(2、5、6件～30件)

選挙の日 6. 25日

6. 18日・・・最大の期間

専決の範囲 }
署名の時刻 }

- ◎ 専決処分して議会召集しないと議会議長は不在となる
そうした時に議会職員はどうするか。

条令案(事務局案 55件提示)

10、毒ガス移送経費

総務局資料 P 10

毒ガス補償追加資料

11、全軍労のストの為の基地内外

軍関係業者の救済策

12、タクシー配車の問題

(通産局で検討)

各方面の意見慎重に検討中

- 13、琉球銀行 米側特殊売却金の沖縄への還元方要請について
- 14、干ばつ — 総務 P15
台風 — 総ム P17
- 15、41号 路線工事の経過
GF資金による際の現状と対策
建設局資料 P4. P5 P7. P8. (P9)
- 16、身分の引継ぎ
行政部資料 P20
- 17、選挙区条令について。
総ム局資料 P38
- 18、就任以来の行政に対する反省
人命尊重 — 反省平和 → スト デモ
(黙認)
人命を失い — 黙認せず — 不測事態を起さぬ [よう] 保安要員を
残し — 体制を整えた。
大勢としてさげ得なかった
- 19、過疎対策
企業誘致、基ばん整備 植樹祭 国体 万博の為の関連事業

平良氏

- 1、核の問題
- 2、長計と振興計画との関係
- 3、国県有地の引つぎ ~~国への引つぎ~~ が承継 県が承継 (準備は進めている)
- 4、琉政の債権—債務かり入れ金の処理 臨時特別交付税
- 5、法をつくってもらい度い問題要請
請求権の問題、土地調査の問題
- 6、予算の執行状況
 - 67年 借金可能
 - 66年 資金、運用部資金制度
 - 8月
 - 350万弗 借入れ
予想通りこない
 - price 勧告 — 400 ～ 不実現
 - 400万、500万 借る
 - 上積み
 - 油脂納付金 ～ 未納

日本援助 ひもつき 大きくなって執行困なん ～ 累積して赤字

仲松氏

- 1、任命主席と公選主席の比較
- 2、密約問題
- 3、自由出げき

崎山氏

- 1、建議所「ママ」提出の理由
- 2、位置、価値の転換、
返還協定

一般会計予算の伸率

	予算額	日政負担
	122.0	155.7
1968	114,117,272	23,936,255
	129.6	134.7
1969	147,910,882	32,248,882
	111.6	148.7
1970	165,080,761	47,958,574
	127.1	144.6
1971	209,778,320	69,351,869
	126.1	169.1
1972	264,507,534	117,254,792

市町村交付税

1968	10,747,831	129.4
1969	14,492,417	134.8
1970	18,578,486	128.2
1971	28,294,935	152.3
1972	31,303,825	110.6

国民総生産とその伸び率 [※翻刻者注：このページ横書き]

					平均成長率
68度	69	70	71	72	69～72

屋良朝苗日誌 119 1972年(昭和47年)～

国民総生産	636.7	721.0	850.7	985.3	1,104.3	14.8
一人当国民所得	581	660	780	907	1,010	14.8
本土 全上	1,004	1,174	1,349	1,579	1,712	14.3
全上比 沖縄/本土	57.9	56.2	57.8	57.4	59.0	
対前年度比(生産)		113.2	118.0	115.8	112.1	
一人当り 沖縄		113.6	118.2	116.3	111.4	
本土		116.9	114.9	117.0	108.4	

三年間の施設拡充

文教関係

1、工業高校 4校

商業高校 2校

高校 34校 — 40校

進学率 67.9%

2、水産実習船の建造 459屯

3、公立文教施設

① 校舎 1971.5月1日現在)

778,606 m²の20% 132,120 m²完成

② 屋内体育館 61校の中 49校 80%

プール 27校の中 19校 70%

なお、1972年度は

① 校舎 66,370 m² (一般校舎と産振校舎の新增等)

② 屋内運動場 35校 { 小校 15校
中校 12校
高校 8校

③ 水泳プール 4校(小校 4校)が建設中である

4、特殊学校の整備拡充及び学校の新設

1969.12.15

政府立鏡が岡[丘]養護学校整肢療護園分校を那ハ養護学校に独立

1970.4.1 鏡が岡[丘]養護学校に高校部新設

1970.4.1 政府立沖縄盲学校高校部に別科設置

1972.4.1 政府立美咲養護学校を新設

5、風しんに依る聴覚障害児教育の強化

72.4 全沖縄に難聴学級を49学級設置 59名の担当教師配置

警察施設整備状況

1969～70	警察学校新築 首里無線中継所新築
70～71	警察通信庁舎新築 渡具地警察署新築 具志川 〃
71～72	警察学校留置擁壁新設 恩納警部派出所新築 大湾巡查駐在所新築 仲地 〃 多野岳無線中継所新築
計10件	820.715 弗

労働局

1、沖縄総合職業訓練所の設置

		建物坪数
第一期工事	132万 1365 弗	9,094.41 m ²
第二期	〃	
総経費	189万 745 弗	1万 5,314 m ²

- 訓練所 ～ ① 板金科
 ② 自動車整備科
 ③ ブロック建築科
 ④ 塗装科
 8科 ⑤ 機械科
 ⑥ 電子機器科
 ⑦ 溶接科
 ⑧ 配電科

2、一般職業訓練所の充実強化

- ① 那覇一般職訓の拡充
 一次、二次 左官科、ミシン縫製科新設
 ② コザ一般職訓の拡充

3、沖縄就職援護センターの設置

雇用促進事業団の直営施設
 5,000万円 684 m² 72.1に完成

4、内職公共職業補導所の設置

- 72. 1 コザ市・・・総合的婦人内職補導
- 5、沖縄勤労福祉センターの建設
 - 工費 79万9,262 弗 347万2,256 m²
 - 70年5月完成
 - 失業保険特計から支出
- 7、労働衛生センターの設置
 - じん肺健康診断等業ム開始
 - 医師、レントゲン技師
 - 衛生検査技師
 - 労働基準監督官
 - 看護婦、運転手

}
6名
- 8、コザ職業安定所の増築

厚生局社会福祉施設

- 69. 中部老人福祉センター
- 70. 1 北部老人福祉センター
- 70. 3 八重山老人福祉センター
- 70. 5 宮古老人福祉センター
- 70. 6 名護厚生園
- 全上 コザ福祉寮
- 71. 1 沖縄聴覚障害児福祉センター
(那覇市)
- 71. 2 具志川育成園(精薄児通園施設)
- 71. 12 張水学園(精薄児の教育)
- 71. 12 沖縄療育園(石嶺、チョウ塚)
- 72. 3 具志川厚生園
- 72. 3 沖縄盲人福祉センター
(ナハ市)
- 72. 6 太陽の町(重度身体障害者福祉の為の授産施設)
(南風原)
- 72. 6 乳児院(乳幼児の為)
(那ハ市)
- 69年～72年度 保育所

市町村立	67	}	89
私立	22		

その他大型施設

新那覇病院の建設
 フライングドクター制
 労災保険会館

保健衛生関係施設

72. 2. 28 中央保健所、
 71. 12. 25 } 精和病院
 72. 3. 28 }
 71. 12. 25 }
 69 ゴミ処理施設
 (コザ市)
 72. 6. 30 し尿処理施設 (石垣市)
 72. 11. 30 ゴミ処理施設 (南風原)
 73. 5. 30 ゴミ処理施設 (与那原町)
 全上 し尿処理施設 (名護市)
 全上 全上 平良市
 70. 3. 27 } 名護病院
 71. 4. 5 }
 71. 2. 12 八重山病院
 70. 12. 2 }
 71. 10. 28 → コザ看護学校 (具志川市)
 72. 8. 26 }
 72. 10. 23 }
 72. 3. 16 石垣医病航空事ム所

総務部長 { 財政次長 } 仲松 { 赤嶺
 一般行政次長 } 前田 { 金城

企画部長 ・ 喜久川宏 (大城)
 農林水産部長 ・ 比嘉行雄 (野島)
 土木部長 ・ 安里一郎

労働商工部長 { 渡久地政宏
 赤嶺 { 赤嶺
 仲松 { 金城 (作一)
 前田 { 慎徳

厚生	〃	・平安常実 伊波	
企業局		宮里栄一 翁長林正	次長 大嶺永夫
住宅公社専理		・仲村栄春	
観光事業団専理			
雇用促進事業団理事所長		仲松	
開金 理事		宮里栄一	
農信連理事長		翁長林正	
東京事ム所長		糸洲一雄	
出納長		新垣茂治	
知事公室長		✓大島修	
総務部長		✓前田朝福	
企画部長		✓喜久川宏	
農林水産部長		✓比嘉行雄 行島	
厚生部長		✓平安常実	
労働商工部長		✓仲松庸幸	
土木部長		✓安里一郎	
企業局長		×宮里栄一	
東京事務所長		糸洲一雄	
出納長		新垣茂治	
次長			
総ム部次長		里 春夫	
	〃	金城慎徳	
企画部次長		大城 守	
農林水産部次長		野岳武盛	
厚生部次長		伊波茂雄	
参事		青木行雄	
労働商工部次長		赤嶺武次	
	〃	金城作一	
土木部次長		渡久地政宏	

5. 2 2 復帰の前後

1、1969. 11. 佐藤 — ニクソン共同声明に依って 72年中に復

帰は実現すると決り、直ちに復帰準備に取かかる。本土政府に於ては沖縄対策庁が設置され、そこが中心となり本土における準備を整えていく事になる。沖縄では琉球政府内に復帰対策室が設けられ室長に瀬長浩氏に兼任してもらい準備の作業に取り組む

- 2、沖縄現地に復帰準備委員会が共同声明により設置される事になり正式日本代表に高瀬大使、米国代表にランパート高等弁務官、それに琉球政府を代表して顧問として主席が参加する

何れにも代表代理 顧問代理に吉岡公使、フィアリー民政官（後半）瀬長浩氏があたる

- 3、琉球政府としては復帰対策室の機能のみに待つのでなく各局自体のもつ問題点を洗い出し復帰と同時に直ちに本土法適用を受ける部門暫定措置を講ずべき部門等その他税制をはじめとする諸制度についてその取扱いをどうすべきかを検討しまとめて提出する。これを対策室でまとめ対策庁に資料を提出し、更に復帰対策要項にまとめて次々と対策庁に提出し閣議にかける本格的対策要項に反映させるべく要請する。この仕事は、はじめどう手をつけるべきか途方に暮れながら模索状態を経て段々まとめていった

- 4、一方復帰準備委員会においては代表や顧問代理の方で研究検討を重ね準備委員会の為し得る権限に属するものは意見を調制しそれを代表者会議にかけて上層部に報告しつつ準備をすすめていった。主として為した事は米民政府から日琉両政府に移行せしめていく権限についての問題の処理であった。その事は然程の問題ではなかった

準備活動は第一段階（返還協定の調印まで） 第二段階（批准まで） 第三段階（復帰まで）と作業を分けて処理されて来た。実際は第一段階の仕事が主で第二段階では一回も代表者会議はなく第三段階で一回もたれて全過程は終わった

- 5、準備委員会で合意される事は県民のいさぐ重大な関心事ではなく甚だ形式的な事ム的な事のみであった。そこで私は提案して合意に達し結論は出し得ない事でも県民の関心の深い問題は提案し本会議以外で自由討議し審議の結果、県民の要請事項として日米両代表から上級機関に伝達する事になっていたのだから相当問題の提案が出来た

- 6、復帰に当って要請すべき事項は私から直接総理や担当大臣・その他問題所管の大臣・国会衆参議長、関係委員会に提出し、又準備委員会を通して提出、あらゆる機会を通して政府の復帰対策要項に反映せしめるべく努力した

- 7、総理府の方でも復帰対策要項案が出来ると閣議にかける前に田辺調制官が中心となって沖縄現地に乗り込んで来て関係局部課長と調制 [ママ] し

た。その結果合意に達した諸項はよいとして合意出来ない項目は要望をそえて調制 [ママ] を進めていった。対策庁では出来る丈 再調制 [ママ] してこれを閣議にかけ対策要項が一、二、三と次々出来上っていった。その中には全然調制 [ママ] されない項目もあった 教育委員会法とか土地収用法の如きはその例である

- 8、復帰対策要項が出来上ると今度はこれが法律案となっていた。法律案についても調制官はじめ関係当局が入り代り立ち代り [ママ] 乗り込んで調制 [ママ] をしたがやはり県民の納得出来ぬ点が多く、国会に若干形式的にでも期待すると云う面が多く残って居た
- 9、~~そう云うわけであったので~~返還協定についても中間報告の段階で上京し総理に会って、要望すべき事は十分要望して置いた 返還協定調印式には私の出席を求められていたが沖縄の情勢から出席出来なかった。致し方なく瀬長浩氏
- 10、返還協定も調印され、関連法規も案が出来ていよいよ9月頃から沖縄国会は始る 返還協定をはじめ他の諸法案は何れも非常に難航した 復帰対策要項や復帰関連法案が整えられたので琉球政府としては副主席の提案により これを総点検し最後に県民の声を訴えるべく総点検プロジェクトチームをつくりその点検に当たらせた これはいざやってみると非常に難業であった 実に膨大な資料が案となって提出された。主席、副主席が中心となり連日連夜従来の要請や調制 [ママ] された文言と照らし合せて検討を続けまとめていった 特に総論はその全文の [ママ] はじめとして完全に私が書きあげた
- 11、かくて12月17日に私は建白書をたずさえて上京した。返還協定等は11月20日頃 採決されるのではないかとの情報も伝ったが しかしかねて11月23日頃 現地で公聴会もあるとの事であったのでそれとのかね合いからそう早く強行採決はしないだろうと推測し17日に充分採決に間に合うと思っていた しかしそれは誤算であった。上京し私がホテル東急につくと沢山の報道人がつめかけて私を待っていた。先程 返還協定が桜内委員長の委員会で強行採決された それについてのインタビューを求められた 私はぼう然自失 何と云ってよいか分らない No, Comment で室ににげ込み、しばらく考えをまとめて記者会見する 残念と不満の意を強く表明、未だ参議院での審議も残されているので建議書をもって予定のスケジュールで行動をすると発表し 桜内委員長はじめ衆参両議長や総理や総務長官に会見 建議書を手交する
- 11、衆議員も参議員もその後は型の如く現地沖縄で公聴会を開催した しかしそれは全く形式的の催しであった 東京でも大阪でも開催された

- 1 2、関連諸法規は時間のずれはあったが次々と国会を通り着々復帰は近づいた。かくて1月はじめ佐藤総理が渡米、サクラメンテ [サクレメンテ] でニクソンと会い 復帰の期日の決定と云う事になる。その前に又上京し出来得れば4月1日に実現する事を希望する。総理も気持としてはそうだと云って居られたが結局は日本側は4月1日、アメリカ側は7月1日を主張したらしく丁度その中間5月15日と最後決定 妥協した様である。かくてう余曲折を経て歴史的 昭和47年5月15日、念願の祖国復帰は決った。
- 1 3、かくて東京でも沖縄でも復帰の行事の準備に取りかかる。東京では日本体育館 [ママ] で盛大に復帰記念式典を開催する事になる。はじめは山中長官は 東京での式典を午前に終り ヒ行機をチャーターして沖縄に乗り込み 現地で式典をあげてはとも考えて居られたが その構想は実現せず午前10時から東京でも現地でも同時に国の返還式典をあげる事となる。沖縄側は午前は国の式典、午後3時から沖縄県発足式典と決った。なお14日には識名納骨堂で戦没者に復帰報告祭を行う事となる。この事についてもさん成 反対ありで大変もみにもんだが [ママ] 結局私の [ママ] 各政党や団体幹部と懇談し予定通り開催する事とした。
- 1 4、ところが14日は生憎の豪雨で果してこれで挙式出来るか危ぶまれた。山中長官はじめ衆参両院代表も出席さる。会場は天と [テント] を張り と [に] かく式はあげられる段取りとなる。しかし直接雨にぬれる事はなかったが式中也大雨は降り続き弔辞も聞えぬ有様であったが何とか式典を終える事が出来た。かくて復帰行事の一行事。この英霊への報告祭は雨の中ではあったが無事に終る事が出来た。
- 1 5、14日の晩は以前からのランパート高等ベム務官の招きで瑞ヶ覧の商工 [将校] クラブで催された最後の晩さんに夫婦出席するそこには米国側高位高官全員出席、当方は山中大臣、高瀬大使、私夫婦、等が主賓だった。なお私の方は既に左馬にランパート夫妻、フィアリー民政官夫妻、サンキ一夫妻、藤田氏等招待し感謝状を贈り 又記念品も贈ってあった。この日の御別れパーティーは正式の催しであった。皆一応入場し、山中長官、高瀬大使 ベム務官夫妻 主席夫妻と云う工合だった。ランパート弁ム官挨拶、山中総ム長官あいさつ、高瀬大使あいさつ 私のあいさつで式は終る。
午前零時を期して嘉手納空港を出発、東京に向うベム官夫妻を見送りに夫妻、直ちに空港に向う。
そ処15日午前零時を迎え、復帰に突入、一切にサイレン、寺の鐘も合図に鳴りひびく事になっていたが基地内ではそれも聞き得ず残念。ベム官を送り、私は直ちに県庁、知事室に直行する。2時頃まで復帰準備の政

務をとる。署名すべき書類もいっぱいあった

- 16、いよいよ復帰が決ると式典の持ち方も政府内で検討された。はじめの式典執行、準備事務局の案はもり沢山であったが政府部局内の意見や、各政党の意見、各団体の意見等を取り入れ極めて簡素なものにした。勿論祝賀気分で開催すると云う事はさける事にした。整理縮小して式典の持ち方もまとめられていった
- 17、5月15日午前6時を期してみなす県議会召集。議長、副議長をきめ、条令60条を提案。私から提案理由説明、9時頃には一括決議の運びになった。只一つ、一括決議を残したものがあつた。それは選挙区条令であつた。それについては新知事の専決となつた
- 18、9時、沖縄県庁の門標除幕式があつた。それもつつがなく終り、私はマスコミに「ママ」要求に応じていそがしく立ちまわりやがて定刻10時、市民会館で国の式典が開催されるのでそれに間に合わすべく服を着がえて、家内同伴、式場にのぞむ